

平成28年度塩竈市水道事業報告書

1 概 況

(1) 総括事項

イ. 給水状況

本年度の年間総配水量は、大倉ダム水系の 6,607,231 m³及び仙南・仙塩広域水道用水供給事業からの受水量 1,012,090 m³の合計 7,619,321 m³ (20,875 m³/日) で、前年度 7,528,783 m³ (20,570 m³/日) に比較して 90,538 m³ (305 m³/日) 1.2%増加しました。また、一日最大配水量は 24,022 m³ (8月4日) で、前年度 23,695 m³に比較して 327 m³ (1.38%) 増加しました。

年間有収水量は、6,501,685 m³ (17,813 m³/日) で、前年度 6,470,750 m³ (17,680 m³/日) に比較して 30,935 m³ (133 m³/日) 0.48%増加しました。これは、一般用口径 20mm 及び 50mm 並びに生産用水等で 92,162 m³増加したことによるものです。また一方で、その他の口径及び公衆浴場用で 61,227 m³減少したことによるものです。

有収率は、85.33%で、前年度 85.95%に比較して 0.62 ポイントの減となりました。

年度末における使用栓数は、新築住宅等の給水栓の増加などにより、前年度と比較して 111 栓増加し、26,239 栓でした。

ロ. 建設改良の状況

○ 改良事業

主な改良工事として、新富町地区の 2 路線で、口径 100～150mm、総延長 46.1m の緊急配水管布設工事等を実施しました。

○ 第 6 次配水管整備事業

本事業は、平成 20 年度から 30 年度の 11 か年計画で、水道水のより一層の安定供給を図るとともに、送配水管の耐震性の向上、長寿命管の採用によるライフサイクルコスト軽減を目的に実施している事業です。本年度は、栄町・月見ヶ丘地区の 3 路線で口径 400mm、延長 255.3m の配水管布設工事を行いました。

○ 老朽管更新事業

本事業は、国の生活基盤施設耐震化等交付金（水道管路耐震化推進事業）を活用し、地震による断水被害及び平常時の漏水事故の減少を図るため、耐震構造を有する長寿命管に更新整備する事業です。本年度は、本町、新富町、桜ヶ丘、牛生町、芦畔町、笠神地区の 6 路線で、口径 50mm～250mm、延長 1,185.0m の配水管布設替工事を行いました。

○ 災害復旧事業

本事業は、東日本大震災に係る水道施設等の災害復旧費（上水道施設）補助金の交付決定に基づき実施する事業です。本年度は、平成 27 年度繰越分として、寒風沢、桂島地区の 2 路線、口径 75～150mm、延長 1,022.5m、平成 28 年度事業として、貞山通二・三丁目地区の 1 路線、口径 100～150mm、延長 914.8m の配水管布設替工事を行いました。また、港町二丁目・藤倉一丁目地区の 3 路線、口径 50～300mm、延長 2,135.9m については、翌年度へ繰越しました。

○ 排水処理施設及び電気計装類更新事業

排水処理施設更新事業は、梅の宮浄水場で発生する汚泥を処理する排水処理施設を更新する2か年事業（平成28～29年度）で、本年度は国の二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（上下水道システムにおける省CO₂化推進事業）を活用し、加圧式脱水機の製作及び汚泥貯槽流入ゲート据付等を実施しました。

また、電気計装類更新事業は、浄水場及び配水池の電気計装の老朽化に伴う更新事業で、今年度は詳細設計を委託しました。

ハ. 財政状況 *（ ）内は税込決算数値

本年度の収益的収入は、1,567,514,090円（1,687,073,448円）で、前年度の、1,648,080,210円（1,774,171,053円）に比較して80,566,120円（4.89%）減収となりました。これは、水道加入金で14,755,000円及び受託工事収益で62,937,427円減収したこと等によるものです。

収益的支出は1,304,445,723円（1,383,182,004円）で前年度1,399,832,526円（1,508,851,074円）に比較して、95,386,803円（6.82%）減少しました。これは、営業費用で26,383,446円、営業外費用の受託工事等で60,313,254円、特別損失で8,690,103円それぞれ減少していることによるものです。

これらの結果、本年度は263,068,367円の純利益を生じ、利益剰余金は1,709,524,780円となりました。

資本的収支は、総収入557,398,743円（うち仮受消費税731,440円）に対し、総支出1,168,096,776円（うち仮払消費税55,872,015円）となり、収入不足額610,698,033円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額55,140,575円、当年度分損益勘定留保資金298,638,079円、減債積立金196,919,379円及び建設改良積立金60,000,000円で補てんしました。

ニ. 大口需要者に対する水道料金の負担軽減状況

東日本大震災からの復興と地域産業の活性化を支援するため、大口需要者の水道料金の負担軽減を行いました。期間は平成27年4月検針5月徴収分から2か年間で、従量料金単価の内、第4段階51～100m³の単価255円を10円引下げ、同じく第5段階101m³以上の単価295円を50円引下げ、単価を統一して245円に改定しました。

本年度は、平成28年3月検針4月徴収分から平成29年2月検針3月徴収分までで、のべ6,903件、42,479,300円の軽減を行いました。

段階別	第1段階	第2段階	第3段階	第4段階	第5段階
	0～10m ³	11～20m ³	21～50m ³	51～100m ³	101m ³ ～
単価 <small>（1m³につき）</small>	83円	175円	235円	255円	295円
改定後	83円	175円	235円	245円	245円
差 額				△10円	△50円